初級コースにおけるオンデマンド会話教材の試行

石　﨑　俊　子

１．背景

短期留学生日本語プログラムの初級コースでは『NEJ:A New Approach to Elementary Japanese テーマで学ぶ基礎日本語』(西口 2012)を主教科書として使用している。この教科書は自己表現活動中心の教科書であり，各ユニットでそれぞれのテーマについて自分の言葉で話せるようになることを目標として作成されている。したがって，各ユニットにあるモデルテキストはモノローグ（ひとり語り）で，ダイアローグ（対話）は含まれていない。もちろん，授業の中で会話に発展させることは可能であり，各ユニットの最後の授業では常にモデルテキストに関するＱ＆Ａの時間を設け，対話活動も行っている。しかしながら，毎学期の授業アンケートで，学習者から道を聞く，レストランでの会話，コンビニでの会話など日常的に遭遇する会話の練習をしたいという声が寄せられている。以上のことからNUCTを使用し，上記の会話の練習をする活動を取り入れてみた。

２．オンデマンド会話教材の導入とその結果

この会話の練習は授業外活動の位置づけであるため，学生には強制ではなく，任意参加とした。オンラインで公開されている動画を選択し，それをもとに課題を作成した。様々な種類の課題の中から，授業アンケートで学生に評判が良かったものを以下に紹介する。

① 会話を動画で視聴し，問題に回答

「つながるひろがるにほんごでのくらし」(https://tsunagarujp.bunka.go.jp/) の中の「ごみを捨てる」モデル会話（https://tsunagarujp.bunka.go.jp/level01/a11）を見て会話を把握する。その後，会話の内容に関する選択問題及び記述問題をする。

② 動画を視聴し，返答をNUCTに録音a

「MARUGOTO Plus」（https://a1.marugotoweb.jp/ja/）の中の,「道を聞く」モデル動画（https://a2.marugotoweb.jp/ja/challenge_drama/example/?id=3）を見て会話を把握し，その後，返答部分が無音となっている動画（https://a2.marugotoweb.jp/ja/challenge_drama/challenge/?id=3）を視聴しながらNUCTの「受講者の音声による回答」機能を使用して自分の声を録音する（図１①参照)。録音可能時間は30秒が初期設定であるが，変更可能である（図１②参照)。

③ 動画を視聴し，返答をNUCTに録音b

上述の「つながるひろがるにほんごでのくらし」の中の「レストランで予約をする」モデル会話（https://tsunagarujp.bunka.go.jp/level02/b10）を視聴して内容を把握する。②とは異なり，返答部分が無音となっている動画がないため，学習者が返答できるように，無音部分を入れたオリジナル音声を録音し，youtubeに限定公開アップロードした。学習者はこの音声にアクセスし，②と同様にNUCTに録音する。

実際に学習者が上記の課題を遂行するにあたり，②と③においては動画の画面を開きつつ，NUCTの画面も開いて録音しなければならないため，煩雑さを感じる可能性があると思われたが，特に学習者からの質問はなくNUCT上の説明のみで問題なかったようである。

学習者によると，ゆっくり話していると，相手の次の音声に重なってしまうため，ターンテイキングがうまくいくように何度か録音しなおす必要があったが，それも良い練習になったと話していた。フィードバックをするために，録画された音声を聞くと，最初のうちは緊張していたようであったが，回数を重ねるたびに発話速度が上がり，自然な会話へと変化していったことが伺われた。

３．今後に向けて

「MARUGOTO Plus」には返答ができる動画が用意されているため，上記の返答を録音する課題は提供しやすいが，そうではない動画は，教材を作成する必要がある。その際，学習者の返答をある程度予測して作成しなければ，返答によっては次の会話が成立しなくなる恐れがある。今後は，更に様々な場面での会話の動画を収集し，必要な動画もしくは音声を作成して初級の学習者が必要とする会話場面を網羅するオンデマンド会話教材を完成させたいと考えている。

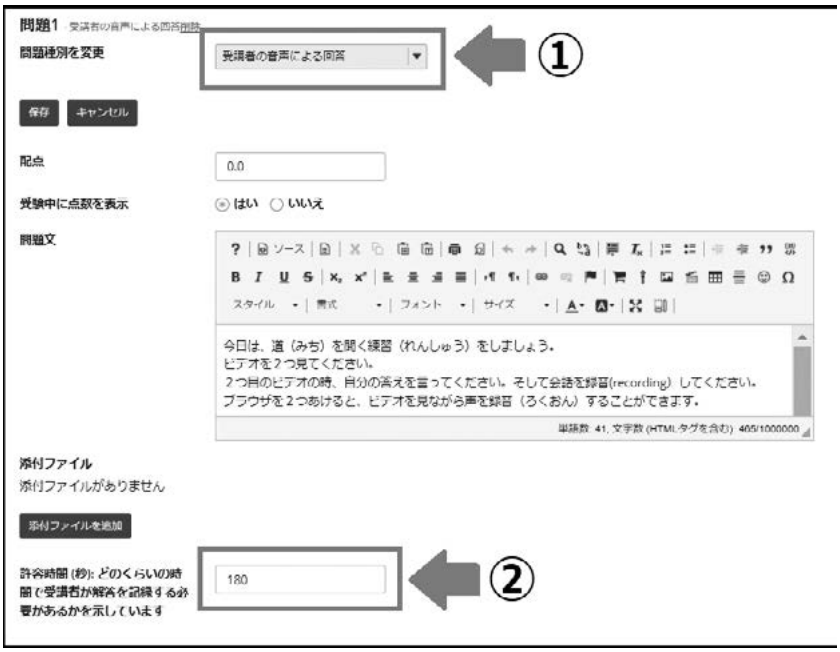

図１